

「ごちゃまぜ」のふくしで優しさを貫く 地域づくりを考える 第8回 あ・い・ち・ふ・く・し シンポジウム

去る2月10日、ホテルメルパルク名古屋で「第8回 あ・い・ち・ふ・く・しシンポジウム」が開催されました。今年のテーマは「2040年の超少子高齢・人口減少社会を見つめて～「あ・い・ち・ふ・く・し」の視点から「先端技術の活用」と「新たなまちづくり」を考える～」。福祉や行政関係者、また学生の発表も交えながら、迫る20年後のふくし問題について語り合い、考える1日となりました。

主催／愛知県社会福祉協議会、中日新聞社・中日新聞社会事業団 企画・制作／中日新聞広告局

飯尾 当シンポジウムも8回目となりますが、これまでを振り返っていかなくてはならない。回を重ねるごとに、あらためて優しさを貫くには知恵と勇気が必要だと感じています。介護の現場でも技術が革新し、昨今はAIの進化もめざましく、こうしたシステムを使わないと優しさを貫くことも難しくなっています。人を軸にしてモノとコトをハートウエア（人間福祉の回路でつなぎとめる重要性を実感しています）。

大島 かつては高齢者が少なく、今のようには問題視されていませんでしたが、50年の間に高齢化が進み、生活を見直すことも重要となってきました。命があれば生活があり、生活が満たされれば人生も幸福が溢れます。今後ますます深刻になる高齢社会も若い人々とどうしてまた他人事のように先々に不安を感じず、このシンポジウムをきっかけに今から何ができるかを考えたいと思います。

井上 2017年に母を104歳で見送りましたが、母の介護はまさに学びの場でした。母は認知症気味でしたが、一度も治療を受けたことがありませんでした。人は老化すれば必ず能力が落ちる、それを病気にして医師の診断だけで治療を行うのではなく、当事者の意見にも耳を傾けることが大切です。過去7回のシンポジウムを通して、こうした考えがよい方向に進んで

きたと思っています。介護は人間的な行為ですが、技術の助けも必要です。介護作業をより行い易くするための技術向上のために、原点に戻って「ハートウエア」を考へることが必要だと思っています。

大沢 時には介護の技術も現場で役に立たないことがあります。その場合は介護現場の当事者が技術者となり、現場で意見を発信し、新しい技術を開発することや、何となく変わらせないこと、このシンポジウムが世代を超えて人と人との絆を結び、つながりが発展することを願っています。

「人間的な行為ですが、技術の助けも必要です。介護作業をより行い易くするための技術向上のために、原点に戻って「ハートウエア」を考へることが必要だと思っています。」



開会にあたって
愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄

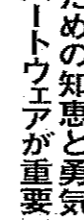
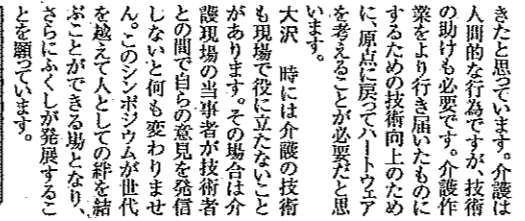
本シンポジウムは、愛知県社会福祉協議会の基本理念である「あ・い・ち・ふ・く・し（安心して・生き生きと・地域で・普通に暮らせる・社会）」の実現に向け、「福祉と技術の連携」を基本コンセプトに掲げ、福祉と技術の双方向的な発展への新たな挑戦のひとつとして開催するものであります。

昨今の超少子高齢化の進行とともに人口減少社会へどう対応するか。また、急速な科学技術の発展と人間の「いのちとくらし」との調和をどう図るか。「医療・福祉・移動・食・住まい」の5つの領域について、これまでの7回のシンポジウムを通じて課題提起を行ってきました。

特にこれからは、高齢化が最も深刻となる20年・30年先を見据え、その当事者となる現在30代・40代の方々を中心となり、どのような地域社会を創っていくかを考えていく必要があります。

そこで、今回のシンポジウムでは、「2040年に向けて」更なる展開を考えていくため、これまでの取組についての振り返りはじめ、「モビリティの取組」「地域包括ケアのまちづくり」「社会福祉法人と地域福祉のあり方」に関する実践発表や辻先生からシンポジウムの総括をしていただく他、名古屋大学や愛知県立芸術大学の学生さんからの新しいものづくりについての発表など、多彩なプログラムを企画しております。

多世代・多分野による「輝く福祉のまちづくり」を楽しく語り合ってください。本日のシンポジウムを、どうぞ最後までお楽しみいただきたいと思います。



連携・協働による福祉と産業技術の新展開を考える

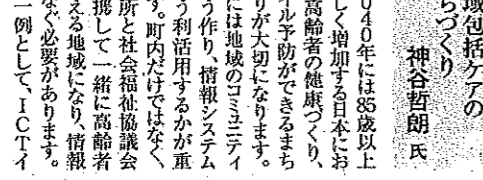


高齢者が健康で自由に移動でき、元気になるモビリティ社会の実現に向けて研究をしています。そのひとつが「歩行トレーニングロボット」。AIが利用者の歩行を解析し、週2〜3回のトレーニングを行う実践実験を2年間行っています。ロボットと一緒に歩くことで目標を感じやすく、利用者が達成感を感じることができ、実際に歩行速度が上がり、体の左右バランスもよくなっているという結果も出ています。

今までの産業の中心となっていたのは、あくまで私たちが高齢者だけではない地域全体が豊かになる「横断的なふくし」を実現するためのひとつとして、誰かが利用できる拠点「つだいまちキッチン」を作りました。まずは若年男女や障がい者など世代を超えてシェアできる場所をしないと意味がないと考え、地域の方々にアンケート調査を実施。この地域に本当に必要とされるふくしが行われるような場を明らかにし、開放的な空間づくりをめざしました。ここにはカフェがあり、高齢者のデイサービスや子ども放課後等デイサービス、またさまざまな体験講座も行われ、また地域交流の拠点となっています。ふくしを「ごちゃまぜ」にすることで、とてもいい化学反応が起きていると思います。今年4月に開所する地域包括ケア施設「KOGAYA LINE」では、週に1回小学生がチャトランスでカフェを行う予定です。これからのふくしの主

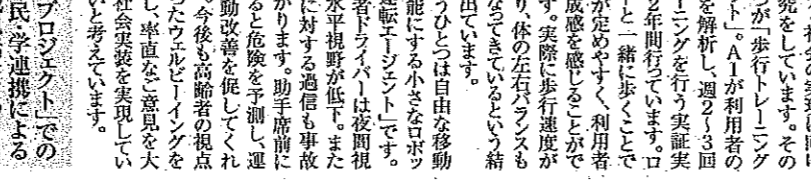
役は小学生です。10〜30代をふくむ世界へ取り込むことは将来的に重要なことで、今後はふくしをもちろみデジタルにクリエイトし、考え、行政に頼りすぎず、自助努力で運営し、ふくしを町おこしを行っていきたく考えています。

「相プロジェクト」での公・民・学連携による地域包括ケアのまちづくり



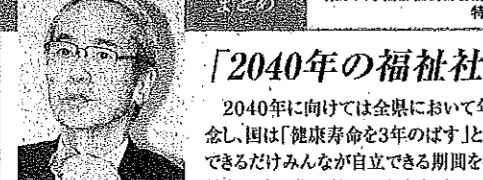
2040年には85歳以上が著しく増加する日本において、高齢者の健康づくり、フレイル予防ができるまちづくりが大切になります。そこには地域のコミュニティをどう作り、情報システムをどう活用するかが重要です。町内だけでなく、市役所と社会福祉協議会が連携して一緒に高齢者を支える地域になり、情報をつなぐ必要があります。その一例として、ICTイ

今後の地域福祉のあり方と可能性



今までの産業の中心となっていたのは、あくまで私たちが高齢者だけではない地域全体が豊かになる「横断的なふくし」を実現するためのひとつとして、誰かが利用できる拠点「つだいまちキッチン」を作りました。まずは若年男女や障がい者など世代を超えてシェアできる場所をしないと意味がないと考え、地域の方々にアンケート調査を実施。この地域に本当に必要とされるふくしが行われるような場を明らかにし、開放的な空間づくりをめざしました。ここにはカフェがあり、高齢者のデイサービスや子ども放課後等デイサービス、またさまざまな体験講座も行われ、また地域交流の拠点となっています。ふくしを「ごちゃまぜ」にすることで、とてもいい化学反応が起きていると思います。今年4月に開所する地域包括ケア施設「KOGAYA LINE」では、週に1回小学生がチャトランスでカフェを行う予定です。これからのふくしの主

「2040年の福祉社会を見つめて」



2040年に向けては全国において年間人口減少率が拡大することを懸念し、国は「健康寿命を3年伸ばす」という方針を打ち出しています。これはできるだけみんなが自立できる期間を伸ばそうということです。それには高齢者が家に住み続けて出歩くことができ、地域で助け合い、最後には医療介護の専門職サービスが受けられる地域包括ケアシステムづくりが鍵になります。特に高齢者がいつまでも元気であるためにはフレイル予防も大切です。食育のこと、人との接触があるかどうかなどのフレイルチェックも地域包括ケアとしての普及を期待します。これらを取り込んだ柏市プロジェクトでは中学校単位の地域で話し合いの場を設け、高齢者が地域に出かける場を作っている。地域全体のネットワークづくりを目指しています。基本はヒューマンサービスを充実させ、その上で補完として技術を使うことが大切です。

未来マトリクス発表



未来マトリクスとはアイデアだけでは終わらせない新しいモノづくりを行う場として2015年に発足、名古屋大学を拠点に活動しています。今回は子どもの迷子に備え「帰るまでみまもりカエルくん」を考案しました。子どもと親を端末でつなぎ、離れたら親の端末にバイブや音声で知らせ、子どもには予め録音された親の声を、親の携帯から通知を伝えます。また専用アプリで子どものいる方角や距離なども認識される仕組みです。現在、「わすびGroup」と「加藤電機」の協賛を受け開発中。今後実証実験を行い、将来的には子どもの安心・安全から高齢者福祉への活用も考えています。

人間の尊厳は平等です。あらゆる人の尊厳を認め合う社会を構築するために、社会福祉法人が地域と行政の中間組織として重要な役割を果たしていくことを期待します。

名古屋大学経済学部4年 船戸雄太郎さん(右)・愛知県立芸術大学2年 木村達哉さん(左)

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏

愛知県社会福祉協議会 会長 鈴木 雅雄氏